

神楽名

坪谷神楽

伝承地

坪谷地区

指定等

市指定 無形民俗文化財

伝承団体

坪谷神楽保存会

代表 海野友志



鬼神舞

◆ 神楽の概要・由来・その他

坪谷神楽と坪谷臼太鼓踊りが伝承されている日向市東郷町坪谷は、歌人、若山牧水の生誕の地であり、著書『おもひでの記』の中には、幼少期に体験した祭りの記録が残されている。

日向市東郷町の臼太鼓踊りは、鎮守である坪谷神社で神楽と同日に奉納される形になっており、1日目は宵越し祭で深夜まで、一夜明け2日目は朝から臼太鼓踊りとお立ち神楽の奉納の後、神輿を出し御神幸が行われる。

坪谷神社は、天正6年（1578）豊後国臼杵の城主・大友宗麟の兵乱に遭い、一切を焼失し、一時は廃社となるが、後に坪谷神社の神職の家系であった日高家の祖先が再興したとされる。

師走祭りの「上りまし」の巡幸道筋に当たり、高鍋（比木）神楽が奉納されていたため、坪谷神楽にはその影響が強く残った。

※ 師走祭り：木城町比木神社の祭神である福智王が、父君である禎嘉王を祀る美郷町神門神社へ参る特殊神事である。

● 臼太鼓の由来

源頼朝が鎌倉幕府を開くとき、地方の青年たちは鎌倉へはせ参じ、農村が衰微したため、幕府は青年たちを農村に引き留めたいと考え「若衆」を組織し、娯楽として臼太鼓を案出・奨励した。これが臼太鼓のはじまりであると伝わる。

◆ 芸能の機会・場所

- 坪谷神社... 11月第3土曜日（宵越し祭）・日曜日（例大祭）に奉納
- 仲瀬神社... 11月第2土曜日
- 城山かぐらまつり... 11月（延岡城址二の丸広場）

◆ 演目一覧

一日目：宵越し祭

宵越しの儀(神事)

振りあげまい
振揚舞①(子ども)

振揚舞③(子ども)

ししまい
獅子舞いちばん
壱番神楽①うらやす
浦安の舞

鬼神舞②(子ども)

つなとりきじんまい
綱取鬼神舞

花の手

振揚舞②(子ども)

だいじんまい
太神舞じゅのまい
寿舞きじんまい
鬼神舞①

臼太鼓踊り

鬼神舞③(子ども)

ばんげきまい
盤石舞

壱番神楽②(子ども)

しょうぐんまい
将軍舞たちからおのまい
手力雄舞とびらきおのまい
戸開雄舞

二日目：例大祭

臼太鼓踊り

大祭の儀(神事)

花の手

御神幸

かんこう
還幸の儀(神事)

※令和3年（2021）11月に奉納された演目に基づく（新型コロナウイルスの影響により例年の神楽とは異なる）

◆ 演目の特徴

高鍋（比木）神楽の影響が強く残るが、純然たる高鍋神楽ではなく、様々な要素が入って現在の坪谷神楽が作られている。坪谷の地神楽に一番似ていたのは旧南郷村の「鬼神野神楽」であったと伝え聞く。椎葉村杵尾より笛の指導をしていただいたため、楽の多くは杵尾に近い。杵尾は鬼神野との神楽の交流があったとされているので、図らずも原点回帰がなされていると言える。

「花の手」「太神」は、女性の舞になっており、女性の活躍がめざましい。「盤石舞」は黒の盤石面が、子孫繁栄、五穀豊穰の原理を教示する舞で、集落のめでたい話題なども交えて言い句を述べ、面白おかしく舞う人気の番付である。宵越し祭は深夜まで活気にあふれ、記紀神話の天岩戸開き演目「戸開雄舞」で締めくくられる。

● 坪谷臼太鼓の特徴

臼太鼓には、進軍・退陣・凱旋等をかたどったものがあり、坪谷の臼太鼓は凱旋の姿であるという。「大十権」や「天満宮」など計十四庭（曲）が伝承されている。

坪谷臼太鼓の特徴として「せきがしら」に絶対の権限が与えられており、その合図によって全員が行動せねばならない。



◆ その他の特徴

- 面...鬼神面、寿之面、盤石面、手力面 等
- 楽...太鼓、横笛
- 装束...狩衣、白の舞衣、白衣、白袴、羽織、大口袴、襷、烏帽子、色切り紙の笠 等
- 採り物...鈴、扇、御幣、面棒、刀、弓、矢、三宝（榊葉・饌供餅）、籠、杓子、椀、搦り粉木 等

◆ 伝承の現状・課題

昭和43年に現在の師匠たちが東郷町越表の田中利吉氏（元比木神社神職）に師事し、戦後途絶えていた坪谷神楽を再興させ、昭和48年に坪谷神楽保存会が発足された。

現在保存会は12名在籍し、うち20代が主力で十一番を舞っている。三十三番に近づきたいという思いがあり、若手を中心に演目を増やす取組を行い、子どもが舞台に立つ機会を増やし、舞手の育成を積極的に行っている。



将軍舞



盤石舞



花の手